

平成27年度 第2学年だより グリーン

尾瀬移動教室が終わって1週間が過ぎました。尾瀬の疲れはとれたでしょうか。最近せき込む人が増えてきました。うがいや手洗いを徹底して、きちんと予防をしましょう。

水曜日から期末考査2週間前になり、試験範囲票が配布されました。1年生のときの反省を生かし学習の計画を立てましょう。自分に必要な学習は何かを考えてください。そして、授業とともに家庭学習に励んでください。

～生徒総会～

水曜日の5校時に生徒総会が開かれました。生徒会本部のスローガン「千中の千中による千中のための活動」には、千中生と先生方全員で協力し合い、学校を盛り上げていこうという願いを込めています。各委員長から活動についての説明があり、2年生も委員会の活動を聞き質問し、積極的に参加していました。生徒会、委員長、議長団、そして発言者のみなさんのおかげで生徒総会が無事に終わりました。ありがとうございました。みんなでこれからも千川中を盛り上げるために頑張っていきましょう。



～来週の予定～

日	予定
6月15日(月)	総合「尾瀬移動教室の事後学習」[5校時]
6月16日(火)	学活「尾瀬移動教室の事後学習」[6校時]
6月17日(水)	耳鼻科検診、期末考査1週間前
6月18日(木)	総合「尾瀬移動教室の事後学習」[6校時]
6月19日(金)	眼科検診、道徳「尾瀬移動教室について」[1校時]、漢字検定16:00～

～尾瀬移動教室の感想～

尾瀬移動教室は、普段見られない動物や植物に触れ、大自然に包まれた三日間でした。私がその尾瀬移動教室で、特に頑張ったことは「自分の役目を果たすこと」です。これは、普段何気なくやっていることだけれど、とても大切なことです。私の役目は室長、班長、実行委員とありましたが、どれも共通していることは、みんなをまとめるということでした。初日は時間に遅れてしまい、伝え方が上手くいかず、叱られてしまったことが何回もありました。でもここで嫌になっちゃうのではなく、何がいけなかったのかを考え、改善しようとする心構えが重要なのだと思い、二日目は前日失敗したことを生かせるように精一杯頑張りました。そして、二日目は前日より失敗が減り、全体で褒められることも増えました。そして、自分の役目を果たすことはこんなに達成感があるものなのだと感じました。



尾瀬実行委員会では、司会進行やお礼の言葉など、みんなの前で言葉話すという仕事もありました。私はみんなの前で話すことが、あまり上手ではなく、早口になってしまったり原稿を忘れてしまったりすることが、何度かありました。今回はそのようなことがないように、家での練習量を増やしたり、友達に聞いてもらったりしました。その成果があったのか、本番では原稿も忘れずにゆっくりと話すことができたと感じています。(多分)

今回の尾瀬移動教室に参加して学んだこの二つのことは、自分にとってはとても大きな進歩だと思います。このことを忘れずに今後の学校行事等で生かしていきたいと思います。

1組 ＊＊＊＊

今回の尾瀬移動教室は、長いようで短かった気がします。しかし、その分、内容の濃い経験ができました。私は今回、様々な経験ができましたが、その中でもいくつか重要なことが学べました。最初に、「事前に調べる」といわれる事前学習の大切さです。一年生の時に行ったスキー教室での事前学習は、主にスキーに関しての学習が中心でした。今回の尾瀬移動教室の事前学習は、尾瀬ヶ原に存在する様々な種類の動植物、マナー、尾瀬ヶ原の歴史など、スキー教室の時よりも、多く事前学習をしました。これらを調べるのは大変で時間がかかりました。しかし、これらをしっかりと調べたおかげで、尾瀬ヶ原を散策しているときに、「あっ!これは〇〇だ!」というように、見つけたものの、名前、特徴が分かり、楽しく散策することができました。今年度の宿泊行事は、もう終わりましたが、これからの都内巡り、職場体験、京都・奈良修学旅行に、事前学習が必要になるはずですよ。だから、これらの行事の前にやる事前学習をしっかりとやって、楽しく様々な事が学べる行事にしたいです。

次に「豊かな大自然」についてです。尾瀬ヶ原は長い長い年月をかけて人々が協力し合って少しずつできた場所です。それも簡単に想像できることではありません。一年間に1ミリメートルしか堆積しないほど、この尾瀬ヶ原は長い年月をかけてできました。私たち人間が、尾瀬を破壊していくのは一瞬ですが、それを元通りにするのは、もっと長い年月が必要です。このように、世界にはとても大切にしなければいけない大自然があることが分かりました。

今回の尾瀬移動教室では、学習のことと大自然の大切さなど、これから生活するにおいて、とても大切なことを学べました。これからは、今回学んだことを生かし、計画性を持ち、環境に関心を持ちながら生活していこうと思います。

2組 ＊＊＊＊



普段スーパーなどで売られている魚を見て、かわいそうと思い、感謝の気持ちがわいてくる人はいるのだろうか。少なくとも僕はそういった気持ちはわいてこない。おいしいか、まずいかでしか判断していない。しかし、今回魚をつかみ取りして食べるということをしてみてやっと普段食べている食材に対して感謝ができるようになった。水の中に入り一番に思ったことが「冷たく痛い」だ。僕に限らず誰もが思ったはずだ。それは白根魚苑の係員の人がいわく水温九度というのだから当たり前だ。しかしそういった感覚は皆、魚を夢中で捕まえているうちに消え去ってしまうのだ。ただ僕だけは例外であった。いつまでも「冷たく痛い」のだ。なぜなら僕は正直なところ、魚に触りたくなかった。ただ単純に魚に触るのが嫌だったからだ。しかし不運なことに、友達が持ってきた魚に触ることになってしまった。そして魚を持った瞬間であった。僕には確かに魚が何かを言っていたように聞こえたのだ。「食べないで。」そう魚は言っているようだった。丸焦げになって魚は僕らの前に現れた。魚だって決して食べられたくはなかったのだ。精一杯生きようとしていた。普段僕ら人間が行う食事という行動は命をいただくということなのだ。僕はそのことに気づいていなかった。だからおなかいっぱいになったら、平気で残っていた。そのためこれからは、命に感謝して残さず食べなきゃならない。僕はそう思い、勢いよく魚にかじりついた。

1組 ＊＊＊＊

